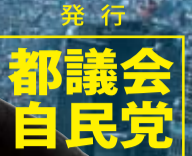
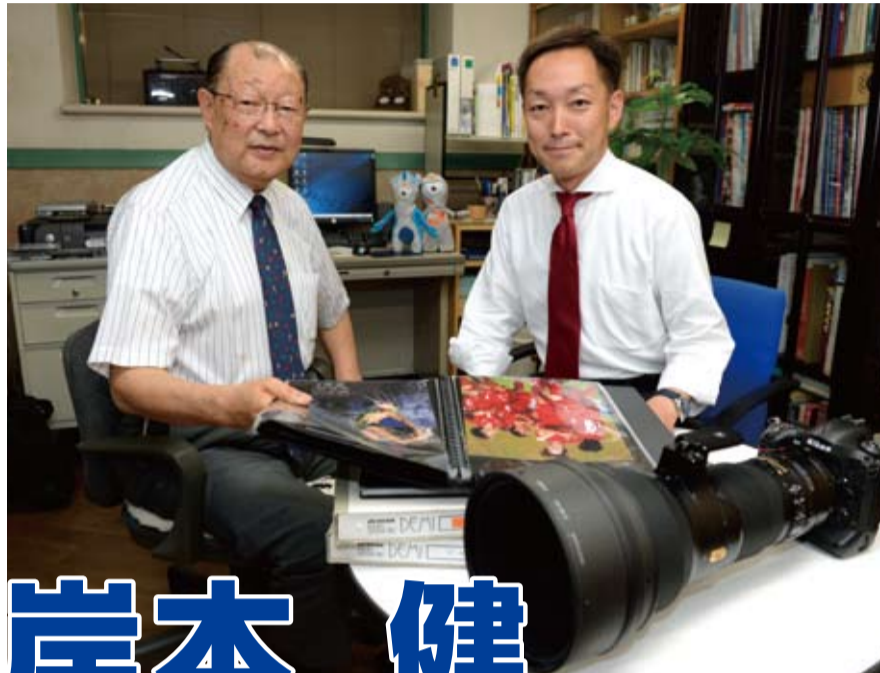


早坂よしひろレポート

オリンピック編



オリンピックが、いよいよ開幕する。
「オリンピックは単なるスポーツ大会ではない」といわれる。では、オリンピックの持つ特別な魅力とは、いったい何か。あわせて2020年東京五輪招致の意義について報告する。



岸本 健 × 早坂よしひろ

イコトしました。

岸本 柔道の山下泰裕選手（現東海大学副学長）が、金メダル確定と目されていたにも関わらず、大会に出られませんでした。山下選手は単身、モスクワに渡り、会場でじっと試合を見つめていました。想像もつかないような努力を重ねて、五輪代表に選ばれたけれど、試合に出られない。あんなに寂しそうな背中を見たことがありません。私はその大きな背中を、レンズに収めました。山下選手は4年後のロサンゼルス五輪に出場し、肉離れを起こしながらも、見事に金メダルを勝ち取りました。

ち、何をどう撮ろうかという、レースの組み立てを考えます。ただゴールの瞬間も大切ですが、私はそれ以上に、レース後の表情や、すり切れたお守りなど、人間くさい部分を捉えたいと思っています。選手の心の深いところに入っていかなければ、いい写真は撮れません。ですから練習はもちろん、生い立ちやご家族など、その選手のことを知れば知るほど、感情がこもった写真に仕上がります。思いの強さと、写真の仕上がりは、見事に比例しますね。涙でレンズが曇ることはしょっちゅうですよ。

ピックを、最も近いところで見られる岸本さんを、うらやましく思います。
岸本 今でこそ、記者証をもらって取材できますが、入場券を自分で買って、観客席から望遠レンズで撮影することはザラでした。あるいは警備員やお掃除の方と親しくなると、なんていうこともありましたよ。今はデジタルカメラですから、枚数を気にすることはありません。しかし当時はフィルムの時代でしたから、食事を我慢して、高価なフィルムを買ったりしました。そういう困難が、結果としては、一枚一枚にかけられる思いを強めることにつながったのかも。しれません。

〈裏面〉

早坂 さあ、ロンドン五輪が始まります！本日は世界で一番多くオリンピックを取材している、フォー・ト・キシモトの岸本健さんにお話を伺います。よろしくお祈りします。
岸本 こちらこそ、よろしくお祈りします。

その中で、どの大会が最も印象深いですか。
岸本 いきなり難問ですね。どの大会も、私にとっては宝物のような存在ですから。しかし、平和の尊さを痛感した、という意味で考えますと、やはり1980年モスクワ五輪を忘れることはできません。

早坂 ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して、日本やアメリカ・中国・西ドイツなど50カ国以上がボ



北島康介 アテネ・北京に続き、3大会連続2種目金メダル獲得へ



なでしこジャパン FIFAワールドカップ優勝に続き、五輪初優勝へ



●プロフィール
岸本 健（きしもと けん）
昭和13年北海道遠軽町生まれ。1964年東京五輪以来、今回の2012年ロンドン五輪まで、夏冬連続25回オリンピックを撮影。この度その一部を国際オリンピック委員会（IOC）に提供する契約を締結した。

皆さまのご意見をお寄せ下さい。





アンデルセン（スイス）1984年ロサンゼルス五輪でマラソン完走



スタート前のパラリンピック競泳選手

オリンピックは、人間の感動を分かち合う最高の舞台です。

早坂 今回のロンドンも3回目の開催ですが、東京も2020年に2回目の開催を目指しています。

岸本 2020年大会は、東京に勝機は十分あると思います。ライバル都市であるスペインのマドリッドは、経済危機のさなかにあります。おそらくイスラム圏初の開催を目指すトルコのイスタンブールとの争いでしょう。もし今回を逃すと、今後は初開催を目指すインドやアフリカ、そして大国のアメリカやフランスも名乗りを挙げてきます。今、必要なのは「なぜ東京が2度目の五輪開催を目指すのか」という問いに答えることです。

早坂 1964年東京五輪や、1988年ソウル五輪、2008年北京五輪などは、いかなれば発展途上国が先進国の仲間入りをする際の通過儀礼でした。いずれも五輪開催が、都市の飛躍的発展の起爆剤になりました。東京では、東海道新幹線や首都高速道路の開通、カラーテレビ普及、ドブ川の一掃など、今日の都市基盤の多くが、この時に整備されたのです。

岸本 早坂さんは、ロンドンが3回目の開催を勝ち取った理由を、どう見えていますか。

早坂 今回のロンドン五輪のメインスタジアムは、スラム街に建設されました。また立候補ファイルをIOC(国際オリンピック委員会)に届けたのは、黒人

の移民の子でした。障害者も含め、社会的少数派であった人たちを排除せず「共に助け合って生きていこう」という姿勢が、高く評価されたのだと思います。

岸本 全く、同感です。スポーツを超えた大きな理念を打ち出すことが、成熟した都市での五輪開催には不可欠です。安全で質の高い大会運営に信頼のある東京が、2020年招致を勝ち取るためにはそれがすべてです。

早坂 昨年の東日本大震災では、世界中から温かい支援を頂きました。ご支援のお陰と、被災者の皆さんの努力で、ここまで復興できたという姿を、世界中にアピールしたい。物質的なものを超えた精神的なものが、成熟した都市で開催されるオリンピックの理念・価値としたら、それこそが、被災した日本が立候補する意義だからです。現に東京の招致計画づくりには、被災3県からのメンバーも入り、復興支援の内容を存分に、盛り込んでいます。

岸本 一人ひとりが懸命に努力



五輪史上最高の大会を、2020年東京で！

し、そして共に助け合いながら目標に立ち向かう復興の姿は、まさにスポーツマンシップそのものです。これは世界中から共感されますね。

早坂 東京の、現段階での弱点は、国民の支持率です。

岸本 IOCの世論調査によると、東京の招致賛成は47%で、他都市の70%台に比べ、著しく低いのが難点です。しかし注目すべきは意見なしの30%です。この皆さんの気持ちを頂くことができれば、世論は一気に動きまします。東京都議会の皆さんが五輪招致機運の盛り上げに、全国の知事を訪ねていますね。招致の意義を語る早坂さんの役割は大きいですよ。

早坂 はい、ありがとうございます。1998年長野(冬季)五輪では、一校一校運動が行われました。今でもその一校一校運動が脈々と続いており、国際交流を深めています。

岸本 そう、オリンピックが開催都市にもたらすものは、本当に大きいのです。それは道路や鉄道ではなく、世界中の人たちがつながっているという、確信なのです。オリンピックは、人間の感動を分かち合う最高の舞台です。オリンピックの歴史に残るような、史上最高の大会を、ぜひ2020年東京で開催しようではありませんか。

早坂 本日は、ありがとうございます。 (写真提供: フォト・キモト)



早坂よしひろ
ミスター防災

プロフィール

- 昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ(43才)
- 西田幼・西田小・松浜中卒業、大検合格
- 立教大学法学部(北岡伸一ゼミ)卒業
- 働きながら明治大学公共政策大学院(青山伸ゼミ)修了
- 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国講演
- 平成17年 東京都議会議員に初当選(現在2期目)
- 東京都議会防災議連幹事、日本防災士会東京都支部長
- 明治大学客員研究員

<災害調査>
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震 他、国内外多数
東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。

2020年東京招致の全国キャンペーンで山口県知事(写真中央右と)



皆さまのご意見をお寄せ下さい。

